

湘南学園だより

No.113

発行
湘南学園だより部
編集

キラリ輝く宝石がいっぱい

湘南学園との出会いのよろこび 学園長 仲本正夫

湘南学園に来て一番感じたことは、幼稚園にも小学校にも中学校にも、今の時代に見失われがちだけれども、しかし、教育的にとっても大切なキラリと輝く宝石がいっぱいあるということです。本当に素晴らしい可能性を秘めた学園と出会うことができたいよるこびを私はかみしめております。二〇三三年に創立八〇周年を迎える湘南学園が、その輝きをくもらせないように、いや、もともと輝きを大きくしていかなければならないと思っております。

幼稚園との出会いは、四月三日の入園式でした。年少さんを迎える年中・年長さんたちの合唱は、とても自信にみちあふれていてびつくりしました。今年就任された榎本園長は「湘南の自然と大人達の溢れる愛情のもと、子どもたちが安心して、生きいきと生活できる幼稚園でありたい」とホームページに書かれています。毎朝、先生たちが表に出てきて登園する園児たちをやさしく迎える風景か

らもそのことが感じられます。

毎日、園庭を縦横無尽に走り回る生きいきとした子どもたちの姿は圧巻で、見飽きることがありませんが、それは、いうまでもなく「子どもが成長していく上、自発的なあそび大切な要素」と考えている保育方針が現れたものと見ることができま

す。小学校との出会いは、じつは昨年九月でした。小学校の算数で、「子どもたちの学び合い」というテーマで授業をどう作っていくかという研究会に共同研究者として参加したときです。この研究会を通して驚いたことは、小学校において、「わかる算数」という子どもたちが「なるほど」と胸にストンと落ちるようなわかり方をする教材を使ったすばらしい教え方を二〇数年全校的に実践してきたということでした。こういう実践をしている小学校は全国的にみてもごくまれです。今の世の中は、暗記的に教え込んで反復練習させれば「学力」がつく

という考えが支配的ですが、それでは子どもたちはたちまち算数ぎらいになつてしまいます。二月には、集的に小学校の全クラスの算数の授業を見せていただきましたが、どのクラスの授業もタイトルなどの教具を使った大変水準の高いものでした。

また、四月一〇日の入学式は、1年生を歓迎する在校生のあたたかい気持ちや会場いっぱい広がる合唱が感動的で、まさに「入学式は最初の授業」ということばを改めて思い起こさせるものでした。

江ノ島の海岸に小学生全員が出て行った「交歓会」も、壮観で夢中になって砂と格闘する子どもたちの姿に見とれました。

中学高校ともつとも感動的な出会いは、五月八日の体育祭だったと思います。中学一年から高校二年までの生徒たちが、リーダーや上級生の指導のもとに、あれだけ主体になつてもりあがる行事をつくりあげていることを見て「本当にこれはすごい」と感動してしまいました。生徒たちは、この体育祭を通して、企画立案することやリーダーシップや協力すること等、社会に出て大いに役立つ目には見えない力を豊かに育てていると感じました。

中学高校の教育について、次に私の目が開かれたのは、湘南学園運営協議会が主催した七月三日の「幼小中高合同第二回ミニ教研」の時でした。この教研では小学校から富田先生のエコスタイルと五十嵐先生の四年生の総合学習の実践が報告され、中高から

は有蘭先生の「中高六年間の特別教育活動ー私の取り組み」が報告されました。参加した保護者からは「先生方の熱い思いと学園の明るい未来を感じた」「先生方の指導に対する情熱に触れることができた」「先生方がこんなになんばつていることをもって発信していきたい」などの感想が寄せられ、幼稚園の先生方からも「湘南学園の中の幼稚園の位置が理解できた」「小・中高でこんなすばらしい活動が行われていることを始めて知った」等の感想が寄せられました。

中高の報告は、総合学習にあたる分野で、中学二年から高校三年までの六年間の学習とその学習における生徒の感動的な成長変化が報告されました。

この学習は、各学年ごとのテーマ設定(中二では「生まれてきてよかった」誰もが等しく与えられた「命の大切さ」を知る)があり、漁村民泊などのフィールドワークなども大胆にとり入れた素晴らしいとりくみになつていきます。

私の湘南学園の宝探しはまだ始まったばかりですが、この宝の探し方を教えてくれたのが「第二回合同ミニ教研」だったと思います。

私は、創立八〇周年に向けて、教育実践交流や運営協議会等を通して、幼小中高がお互いに理解を深め、湘南学園の教育に確信を持ち、連携を強めて、保護者の皆様とも手をつないで湘南学園の教育をさらに発展させていきたいと思っております。

初代園長小原國芳先生と

ランシング先生のピアノ

理事長 高尾 信

現在、創立80周年記念事業の一環として小学校改築工事を実施していますが、皆様方の暖かい御支援のもと順調に進捗しており、心より感謝申し上げる次第でございます。

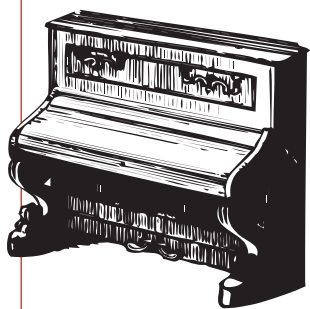
昭和8年の創立当時も有志の方々の献身的御支援で、ようやく開校に至ったのですが、創始者の一人藤江フサさんの御縁で玉川学園創立者の小原國芳先生が初代園長としてヒト・モノ両面で全面的に力を貸して下さったお力が大であることは言うまでもありません。

湘南学園初代主事(教頭)で小原先生の懐刀である、伊藤孝一先生が著された「鶴沼分園誕生記」によれば、藤江親子や隈川藤沢町長の要請を受け、小原先生が鶴沼を訪問したのが3月23日、その場で受諾して4月2日には開校してしまつたとのこと、3月31日に玉川の本園からピアノ、机、黒板、本などが運び込まれていきます。そのピアノが小原先生の母同然の大恩人である故ランシング先

生の遺されたピアノです。

その後、久々に小原先生に御來園頂いた創立30周年の記念講演後の座談会で「玉川学園にも1台しかない、恩人から頂いたピアノを鶴沼に運んだ」話が出てきます。ところが残念なことにその思い出のピアノは、既に湘南学園には残っていないのでした。

今回の小学校改築工事に伴い、オリンピック金メダリストも泳いだことのある伝統あるプールが取り壊しになります。昭和34年に国井博隆氏(昭和38年第9代理事長就任)の御寄付で建設されたものと伺っておりますが、いつまでも贈ってくださった方々の有難い御志を忘れないよう、私も心掛けて参りたいものと存じます。



湘南学園創立80周年。プレ企画

森 稔氏 講演会 開催される

中学高等学校 山口吉英

夏休み前の6月26日(土)に湘南学園史に残る画期的なイベントが開催されました。

湘南学園中学校の第1回卒業生であり、森ビル株式会社の代表取締役社長、森稔氏の記念講演会が中高アリーナにて行われたのです。

今回の企画はもととは湘南学園同窓会が「第2回松ぼっくりフォーラム」の企画として立案・主催し、その後、学校法人湘南学園、湘南学園PTA、湘南学園後援会が共催という形で加わり実現したものです。

森稔氏といえば、あの有名な六本木ヒルズや上海ワールドフィナンシャルセンター等、世界に類を見ない大規模複合再開発を成功し、国際的にも大きな注目を集め、先般二度目となる大英帝国勲章を受章され、いま世界でもっとも著名な日本人といわれています。ご多忙な中、特に後輩である中高生に自身の熱い思いを伝えたいと今回お引き受けいただいたものです。

当日はアリーナに生徒、保護者、同窓生、後援会の皆様、あるいは地域にお住まいの方等約700名の方にご参加頂くことが出来ました。

森ビル紹介映像が流されたあと、中高吹奏楽部の演奏、同窓会の佐藤允会長の主催者挨拶が行われ、いよいよ開会となりました。

始めに、やはり湘南学園中学校第1回卒業生であり、元NHKアナウンサーの鈴木健次氏と森氏による「湘南学園時代の思い出」と題した対談が行われ、当時の自由で活気に満ちた学園の様子が話されました。

引き続き森氏により、「魅力ある都市再生への挑戦〜立体緑園都市“VERTICAL GARDEN CITY”構想〜」と題しての講演が行われました。

大都市東京が、無秩序な開発をすすめているのを見て、国際的に魅力ある都市東京を再生すべきだと考えたこと、そのために「立体緑園都市」構想を打ち出し、長い年月にわたり苦労をかけて地域・住民の方から理解を頂きながら実現してきたことが語られました。

複合的な機能を持つ超高層ビルの建設と地下の有効活用を軸に、緑地を回復し、新たな風の道も形成し、屋上の野菜栽培を含めた有効利用など大胆な構想です。

都市と自然が共生する、職住一体化も追求する、周辺の街にも文化・芸術を発信することの出来る斬新な構想を現実に行っていたことが熱く語られたのです。

最後に特に中高生の諸君へということで2つのメッセージが贈られました。1つは「謙虚であれ、貪欲であれ」という言葉、もう1つは「龍になれ、雲おのずから集まる」というものです。この2つのメッセージは森氏が自らの人生訓ともしてきたものと思われませんが、「自分の夢や目標に向かって、謙虚に人と関わり、積極的に情報を集めて欲しい、志が大きければ、様々な人や情報が集まる、たとえ失敗があってもそれをバネにまた前進していける」という内容で、参加した中高生も胸打たれるメッセージでした。

その後、参加者からの質問に対して丁寧な答えて頂きましたが、やはり、ビルの屋上に水田を作るといような大胆な発想はどこから生まれるのか、あるいは、建設は無理と周囲に言われる中で、そうした状況乗り越えていくエネルギーはどこから生まれるのかといった質問に対して、明確

な視点でのお答えを頂きました。引き続き、仲本学園長からのお礼の挨拶、花東の贈呈が行われましたが、最後に待ちかまえていたのは、森氏にとっても恩師のお一人にあたる音楽の小川先生が会場に紹介され、小川先生が編曲を手がけた学園歌が流れる中で、小川先生にも花東が贈呈され、森氏自らが小川先生の乗る椅子を押してアリーナを退場されるという感動的なフィナーレでした。

今回の企画は、昨年末から準備を重ねてきたものです。森氏と森ビルの全面的な協力の下で実現したのですが、あらためて、創立77周年目を迎えようとする湘南学園の卒業生の多士済々ぶりが発揮されました。また、運営上で注目すべきは、同窓会が主催でしたが、学校法人、PTA、後援会が協賛し「チーム湘南学園」として取り組んだということですね。

湘南学園は現在小学校の建設事業をすすめています。同時に、創立80周年に向けて様々なプロジェクトをすすめていくこととなります。今回の4者を含めた関係者全体で80周年を盛大に祝うことが出来ればと願っています。



学園幼稚園の教育とこれからの重点課題

園長 榎本トミ

湘南学園幼稚園の設立は今から七十年前に遡ります。「官学の画」的教育をあきらまず、個性尊重の自由教育を望んで、子弟を託すべき学校設立」と、大切な子ども達一人ひとりの個性を尊重した自由教育を求める親たちが自分たちで学校を建てたのでした。「自由でのびのびとした個性尊重」の精神を今でも受け継ぎながら歩み続け今日に至っております。

湘南学園幼稚園では「いろいろな花を咲かせたい」を合い言葉に、一人ひとり皆違う子どもたちが自分の持つ力、自分らしい花を自信を持って咲かせることができよう力を注いでいます。周りと同じ事を求めたり、比べたり、妬んだりしないで自信を持って自分の花を咲かせてほしいとの思いが込められています。

- ★自分で考え行動できる子ども。
- ★自分の見たこと、感じたこと、考えたことを、自分の言葉で豊かに表現できる子ども。
- ★相手を思いやる気持ちを持てる子ども。
- ★知識と心身の発達のバランスのとれた子ども。

このように生き生きと元気に生活する子どもを目指して日々保育に臨んでいます。

です。

子どもの生活は「あそび」です。

「あそび」が子ども達を成長させてくれます。湘南学園幼稚園ではこの「あそび」を最も重要なものとして位置付けています。あそびの中には大人では考えられない位の発見があったり、喜びがあります。子どもがあそびたいものをあそびたいだけあそぶ。じっくりと、取り組む。満足するまで取り組む。驚きや不思議さに出合いながらあそぶあそびはさまざまな探求心を育ててくれます。もっと知りたいという思いや、手触り、美しさ等々自分の五感をはたらかせて計り知れない位の満足感を味わいます。おもしろさを追求していく子どもは感覚と思考を駆使しながらもつと楽しく、を追求していきます。創造性豊かに「あそび」は子どもを自然に大きく成長させてくれます。友達と喜びを分かち合いたくありません。友達との関わりの中で喜びを共有していったり、けんかをする中で自分と違う気持ちがあることに気がついていきます。同時に「自分」を意識できるようになります。このようにして子ども達可以自由に安心してあそぶ、必要な経験ができるように保育者はその環境を整え、子どもたちの心に

寄り添いながら、一人ひとりの要求に応えていけるように配慮していきます。

信頼関係のある幼稚園の生活は子ども達に安心してのびのびと生活できる場所を提供します。その子がその子らしく生活ができるように指導しながらも、子どもが決めて、やる気持ちになるのを待つあげます。一人ひとりを保育者が待つことで、子ども達も友だちに自分が待つこともつたように待つあげられる子どもになります。同時に自分も自分でいんだなと思える子どもになります。一斉に指導しても進度は皆ちがいます。その子その子で得手不得手があるので、その子なりの進度を認めてあげること、で、みんなの中で認めてもらっているという安心感を実感します。自分もそんなときがある、クラスのみんなもそんなときがある、それでいいんだ、みんな違う子どもなんだな、と子ども達も思うようになります。自分のままでいいんだと思える子どもは自分に自信が持てるようになります。自信がもてるようになった子どもは友だちをも認めることができるようになります。友だちが自分よりも上手にできたりしたときもしっかり褒めてあげたり、一緒に喜んであげることができま

湘南学園幼稚園ではこうした子どもの自信を大切にして友だちとのコミュニケーションを活発にしていきたい。最近、友だちとのコミュニケーションが上手にとれない子どもたちが増えているとよく耳にします。たくさん認められて自分に自信のある子どもは友達関係を上手につくれます。安心感(生活しているときの愛されている、見守られている、保護されている)といった当たり前の安心感が、友達関係を豊かにすると考えています。自分のペースでがんばれたことを保育者が喜んでくれることで、子どもはともにも自信になり、友だちにも同じように喜んであげます。子ども達がやりたいと思ったことを最後までやらせてあげたり、甘えさせて十分つきあってあげるとは、子ども達の「自律」(自分で考えて行動できる)をさせてあげることにつながっていきます。子ども達はどんな花を咲かせてくれるのでしよう。自信を持ってその花を咲かせてほしいと思います。目に見えて何か上手になる事よりも、幼児期には目には見えないけれど、子ども自身が愛されているという安心感と自信をもつてあそべる子どもになってほしいと思います。幼児期に育つ人間として最も大切な土台を幼稚園と保護者の皆様と共に考え、子ども一人ひとりのことを伝え合い、協力しながらその子らしい花を咲かせてあげられるために努力していきたいと思

「お泊り保育」

年長組学年主任 箕輪ゆか

幼稚園では毎年7月の初め、年長組が幼稚園で1泊する「お泊り保育」を行っています。

年長組になったばかりの4月当初の子どもたちは「さくら(年長組)になったから幼稚園にお泊りするんだよね。」と保育者に語ったり、子ども同士で話題にするようになり、子どもとして受け止めているようです。

期待や喜びがある反面、不安を持つている子もいます。初めてお家の人と離れて泊まる経験をする子もいる中、「お泊り保育」に向けて期待と見通しを持てるよう取り組み、子どもたちが主体的に活動できるように進めていきます。当日はもちろん大切ですが、それに向かって子どもたちが進んでいく過程を大切にしています。

まずは子どもたちが「お泊り保育」のイメージを持ちやすいよう、先生から大まかな流れを聞きます。その後、子どもたちと「お泊り保育で何をしたいか」「自分たちでどんな仕事ができるか」など、クラスや学年で話し合いを重ねました。

夜まであそびることを知ると「夜まで高鬼がしたい。」「ぼくが入れるくらい大きなカプラ(小さな木製の積み木)の家を作る。」「今までやったゲーム全部やる。」など、日頃やっていた

るあそびをとことんやりたいという気持ちも伝わってきました。また、「おぼけやしきやろうよ。」「夜に小学校に探検に行こう。」「屋上で星を見る。」「流れ星見たいね。」など、夜ならではのあそびのイメージも膨らませていました。

「どんな仕事が必要なのか……では「どこで寝る?」「おふとんはどうする?」「家から持ってくる?」「えー私ベッドで寝てるよ。」「おふろは?」「屋上のプールを使えば?」「いいねえ。大きいからみんなで入れる。」「先生、お湯ある?」「前のさくら(年長組)の先生に聞いてみるのはどう?」「戸締りもしなくちゃ!」「幼稚園は閉めるところたくさんあるから調べておこうよ。」「など、みんなの前で自分の思いや考えを伝えたり、友達の話聞きそれに応えたり、どうしたらいいかみんなで考えたり、解決するために子ども自ら行動したり、お泊り保育を主体的に進めようとする姿が見られました。中には大人が考えつかない発想もありました。「警察に電話してどろぼうが来ないように幼稚園の周りをパトロールしてもらおうよ。」「ということになり、園長先生に協力してもらい、子どもたちが藤沢警察署に電話をして直接おまわりさんにお願いをしました。

「お泊り保育」に必要な物の買い出しも子どもたちが行いました。一人ひとりが何をどこで買うかを話し合いで決め、買い物に行く前日に幼稚園銀行にお金をもらいに行きます。翌日、買い物に出発!商品の中から自分の買う品物を見つけ「〇〇ください」とお店のレジでお金を払い、おつり・レシート品物を受け取り、レジの人から「ありがとうございます。」と言ってもらい、誇らし気な表情の子どもたちでした。

年長組全員で準備を行い迎えた「お泊り保育」当日。大きな荷物を自分で持ち、張り切つて登園して来た子どもたちの姿に不安はなく、誇らしげな表情でいっぱいでした。

子どもたちが電話でお願ひしていた警察官がパトカーに乗って登場!「お泊り保育の間パトロールしますので安心してください。」と話してくれました。本物の警察官の姿に、喜びと安堵した子どもたちでした。

自分たちがしたいことと思う存分あそび、生活するのに必要な夕食作り、おふとんとシーツ敷き、お風呂の準備などを行いました。みんなで作って食べたカレーのおいしかったこと!「お家のよりおいしい!」とおかわり続出でした。夕食後は一人ひとりで懐中電灯を手に、暗くなった園庭・裏庭・屋上・小学校探検に出発!初めて体験する夜の幼稚園に大興奮でした。お風呂は、園庭に作った露天風呂へ。パジャマに着替えおふとんに入り、みんなで枕を並べ園長先生の読んで



くれたお話を聞きながら夢の世界へ……。翌朝、目覚めた子どもたちの「あつ!幼稚園だった。」「お泊りできた。」「もつと泊まりたいね!」というおしゃべりが聞こえてきました。

「お泊り保育」当日まで様々な取り組みをしていく過程で、子どもたちが自分の事として捉え、それぞれが描くイメージを具体化する中で、不安がとりのぞかれ、期待や楽しみの気持ち膨らんでいったようです。当日は不安を訴えたりする子はいませんでした。わずか1泊2日ですが、親から離れ、友達や先生と助け合いながら生活し、たくさんあそんだ経験をしたことで、仲間との関係がぐっと深まり、さらに自信をつけた子どもたちに大きな拍手を送りたいと思います。

湘南学園小学校教育目標

小学校長 寶田宏恭

長い夏休みも終わって、子どもたちの元気な声が教室にもどってきました。夏休み中子どもたちに、大きな怪我や、事故がなく過ごせたことをうれしく思っています。

二期期の始まりに当たって、もう一度初心に戻り、本校のめざす子ども像を考えてみたいと思います。

今年度の初めに、小学校の保護者の方には、小学校の教育目標をお示しいたしました。昨年、本校に赴任して学校の教育目標が、分かったことが分かり、小学校としてのめざす子ども像（教育目標）を建学の精神やこれまでの本校の歩みから次のように立てました。

- よく考える子ども
- 思いやりのある子ども
- 明るく元気な子ども
- やりぬく子ども

この教育目標は、お題目として唱えるだけのものではありません。日々の学校生活全体を通して具現化を図っていかねばならないものです。すべての教職員がこの目標をしっかりとりとえて教育にのぞむことが大切です。

しかし、教育の仕事は、間口が広く奥行きが深く、良い効果を上げるには大変な努力と工夫がいります。指導の重点をきめてある一点に力を集中し、そこを糸口として全体の向上を図り目標に迫る。

これが効果的なやり方だと考えます。

ここで、教育目標それぞれを詳しくみていきたいと思います。

○よく考える子ども

このことは、学校教育であるからには当然すぎるほど、当然なことですが、「学ぶ」ということは、「教えてもらって覚える」とか「まねてする」等の意味があるようです。しかし、現代の社会のように科学技術の進歩とともにすべての文化財を伝達することは不可能ですから、知識の増加や変化に対してどう反応するかという方法を獲得しなくてはならないでしょう。知識の獲得ではなく、対応する能力を最大限に伸長させることが「学ぶ」ということになると思います。基礎的な能力を身につけるための学習が学ぶことであるとすれば、考える態度や方法を身につけることによつて進んで

学ぶことができるようになると思います。新しい学習の方法を検討して主体的、発見的な方法を工夫していくことだと考えます。

○思いやりのある子ども

思いやりのある子どもは、自然に育つことはないと思います。周囲の思いやりのある人々に接することによって思いやりは育つのではないかと考えます。礼儀というものは、平たく言えば、うちにある親愛や尊敬の情をそとに現すやり方です。その道具として、私どもは言葉と行動を使うのです。言葉も作法も長い間かかつて人間社会が生み出した約束事であるだけに、教えられなければ覚えることができません。思いやりの表現も言葉と行動で現されます。相手の気持ちになつて表現するのですから、相手に好感を持たれるような言葉や行動を教える必要があると思います。

○明るく元気な子ども

心身共に健康であると言うことは、単に病気をしない、怪我をしないということだけではないと思います。「強い体」を持つことです。たくましく伸びやかな体力は未来を築く大切な原動力です。私たちは、これが正しくのびるように、あたたかく見守り指導しなければなりません。さらに、「安全」については、いくら注意してもしきれないほど危険がいっぱいで

す。PTAのご協力をお願いします。

○やりぬく子ども

がむしやらに物事をやるということではなく、世の中のルールを守りながら最後までやりぬくことがきわめて大切なことだと思います。現代の子どもは、少しの困難に出会ってもすぐ飽きてしまい、勉強や仕事を投げ出してしまふといわれています。共に働き、共に学ぶ活動を通して、つらいことや苦しいことを乗り越え、物事を成し遂げた喜びや、成功に伴う満足感を味わわせたいものだと思います。そして、一人一人が責任を持つて仕事をやり、互いに協力しあう生活態度を育てたいと考えます。

以上述べましたように、よく考え、思いやりがあり、明るく元気で、最後までやりぬく、こんな子どもに育てたい。これを湘南学園小学校の子ども理想として努力していきたいと思っています。

先生方の研究では、「学びあう子ども」をテーマにして、授業を通しての研究が行われています。子どもたちは、「たいいく表現まつり」にむけて練習に一生懸命取り組んでいます。一人一人の子どもが楽しい思い出を作り、充実感を持った豊かな学校生活を送られるよう努力して参ります。

進む小学校建設

小学校教頭 斉木 修

小学校教員室から見下ろしていた建設現場ですが、東京スカイツリーよろしく日ごとその姿を現しついでいきました。大変な猛暑の中、建築現場一体となって作業を進めています。学園側でも週一回の定例建設打ち合わせ、また建設担当理事も参加しての、定例建設会議を月一回開催し、関係者一同毎回熱の入った議論を進めてきました。今回はこの紙面をお借りしていくつかの話題をお伝えします。

その二

「湘南学園の良さを、もっと宣伝して欲しい」と、募集活動で何人もの保護者からご指摘を受けてきました。ホームページの充実や、全職員が参加しての募集活動等に加えて、湘南地域の情報誌（フリーマガジン）である「フジマニ」にも湘南学園がこの間毎月号登場しています。四十八号には湘南学園小学校の完成予想図がカラーイラストで二ページに渡って紹介されています。※四十九号には仲本学園長へのインタビュー、五十号には九月十日に行なわれた小学校第二回目の公開授業、学校説明会の案内が掲載されています。

その三

湘南という地域にふさわしく、貝殻の形をモチーフにしたユニークな外観をした校舎の構想は、日本の学校建築の第一人者東洋大学の長澤悟氏によるものです。また実際の設計を行なったのが、日本設計というこれまた日本有数の建築事務所です。この両者が「日本建築学会作品選奨」を受賞されました。子ども達が一流の学校建築で（長澤先生は校舎自体が教具だと主張されてきました。）学び、成長していくことを考えると、私

た新校舎建設ですが、工事の進行に従って、教職員にも実感がわいてきました。この夏休み中にも、暑い最中ではありましたが四月からの引越しに備えての作業が進められました。

振り返るとPTA会館や、休み時間ごとに子ども達が群がるように遊んでいた遊具も撤去されました。夏休み中には新しい受水槽の工事も行なわれ、新校舎周辺の風景も確実に変わってきました。

建築も現在各教室や廊下などのカラーリングの検討に入り、よりくっきりと新校舎のイメージが立ち上がってきました。小学校教職員は、この休み中にも、新校舎の建設にふさわしい教育の中身の在り方に焦点をあてて、「小学校教育の改革の方向性」について議論を進めてきました。小学校建設を一つの節目として、その教育の中心、質についても大きく飛躍したいと、日々取り組んでいます。

まだまだ先のこと、と考えてき



「より豊かな体験活動」を目指して

小学校教頭 斉木 修

湘南学園小学校の特色ある教育活動の一つが、各学年で取組まれている多様な体験活動です。この一学期に宿泊行事として取組まれた活動を、まずご紹介しましょう。

三年生―五月二十四日から一泊二日で油壺に行ってきました。一日目の活動はまず荒井浜海岸でのビーチコーミングです。三年生のみんなは生き物だけでなくビーチグラス探しにも意欲まんまんでした。マリナーパーク見学では恒例のイルカ・アシカショーを見た後に、湘南学園小学校のみんなだけ、飼育員の方にお話を聞き、パークヤード見学もしました。マリナーパークを独り占めした楽しい学習となりました。

夜の磯観察では昼間の海とは一味もふた味も違う体験が出来ました。

四年生―六月十七日から二泊三日で山中湖を舞台に活動を行いました。一日目のハイライトは石割山登山です。四年生の総合学習

は「水と環境」をテーマにしていますが石割山登山は「水源」を訪ねる旅でもありました。四百段の石段は厳しいものでしたがNPOの方にもお世話になりながら全員無事踏破できました。

今年初めての試みはNPOネイチャークラブの協力を得ての「夜の森体験」です。一メートル先も見えない漆黒の森での体験は生涯忘れられないものとなるでしょう。

五年生―七月十五日から三日間、西湖で活動を行いました。一日目は富士五合目のトレッキング、青木ヶ原樹海でのウォーキングでした。樹海体験では今年NPOエコネットのガイドを一クラス三人に増やしたことで、例年よりもじっくりと話を聞き、樹海の成り立ちや、独特の生態系など、わかりやすく学ぶ事が出来ました。

四年生同様今年初めてナイトウォークも実施しました。みんなが驚き感動したのは、赤外線に誘われて顔をだしたヒメネズミ（夜行性動物）のかわいいかわい姿で

す。とても幸運な出会いでした。

六年生―六月一日から四日間奈良、京都の修学旅行へ行ってきました。今年は平城京遷都千三百年ということで奈良の博覧会に足を伸ばしました。再現された平城京を現地ガイドさんの案内で回りましたが、わが湘南学園小学校六年生はみな熱心にメモをとりながら学んでいました。同じ会場にいた各地の修学旅行生がそれを見て、「ねえあの子たちどこの子」「すごくてねえ、ちょー真面目！」などと口々に話しているのを見て、誇らしい気持ちになりました。

ハイライトは三日目のグループごとのタクシー行動でしたが、一件の事故もトラブルもなく終わることができました。

今小学校では新校舎建設にふさわしい教育の在り方をめぐって、教職員で議論を進めています。その中で本校の特色ある教育活動である体験学習を、総合学習として更に発展させ、単なる体験を超えて「豊かな学び」として結実させ

る道筋を探っています。中高でも「特別教育活動」という大変優れた教育実践がありますが、「学び」を狭いところに閉じ込めず、児童生徒の意欲喚起を大切にしたい、このような教育実践は、小学校のみならず湘南学園としての優れた教育財産であり、更に発展させたいと考えています。



中高パートの取り組みと 生徒諸君への願い

中高校長 山田明彦

中高の取り組みについて、この夏休みの様子からまずお伝えします。

夏期講習は、お盆の時期を除く4週間、今年もずっと旺盛に展開されました。中学は国社理の指名補習と英数の全員講習が行われ、高校は希望制講座が各種で60以上にまで増加して校内で展開されました。高2高1の合宿講習にも約70名の諸君が参加しました。

クラブ活動も、練習に集中して取り組める期間であり、特に部活合宿は7割以上の19ものクラブが夏期合宿を行いました。山梨県など自然豊かな地で、先輩・後輩が寝食を共にして練習や観察に打ち込み、親睦を深めました。通常の校内練習や日帰りのイベントなども、猛暑に留意してめいばいに展開されていました。

一方、合宿講習と同時期にカナダセミナーとオーストラリアセミナーが並行して開催されました。第1回の豪州へは途中から視察訪問しましたが、参加者諸君の意欲あふれる研修の姿に感動しました。この国際交流、国際教育の芽を豊かに育み、生徒諸君の今後に広く役立てていくことも、これからの大切な課題のひとつです。

年度当初に、中高の重点課題として「授業実践の強化」と「学年会の集団指導の充実」を掲げました。全校的に学内の授業研究を活性化し、各教科全体のスキルアップを図ることが第二です。教科会で相互見学と意見交換、公開週間の設定などが広がっています。

各学年会は、4月のガイダンスから精力的な取り組みを進めています。学年集団の到達と課題をふまえた指導、日常的な情報交換と協同の関わりに努めています。また中高別の「学年主任会」も定例化し、連携を図っています。マナーとモラルを求める全般的な生活指導も、日常的にまた迅速に展開されています。

もうひとつの重点課題は、この数年進行してきた募集危機の打開です。入試広報のセクションは、塾など関係先訪問と情報収集、広報活動、そして学内への紹介還元をととも積極的に展開しています。外部の説明会や相談会の機会もかなり回復増加しています。校長も前面に出て対外説明に努めています。

ホームページの強化も関連する留意事項です。この春に就任して以来

「校長通信」を、登校日は毎日と決めて発信しています。これまで約百回の連載で学園中高教育の具体的な取り組みを、広く学外に紹介宣伝してきました。各学年が日常進める補習や講習、特別教育活動の内容とねらい、図書室など学校行事の盛り上がり、図書室など学内の諸風景やPTA活動、地域の話題なども取り混ぜ、多面的に「学園の活気と魅力」を学外にお伝えしたいです。教員の熱意ある取り組みと積極的にチャレンジする生徒諸君の姿は誇りであり、対外的にも強くアピールできるものです。私自身が「学園の良さ」を再発見する過程でもありました。

幸いにも通信は在校生や保護者の方々にも広く読んで頂き、多数の励ましを頂いています。他の学年や学校全体の動きを知る上で役立つなどのお声が嬉しいです。いずれペース変更を余儀なくされるかもしれませんが、出来るだけホットな発信に努めていきたいと思えます。

今年の夏は猛暑が続き、熱中症が多発しました。高齢者の行方不明や幼児の虐待、死亡が次々と報道されました。経済のグローバル化の一方で「無縁社会」の様相が広がっている、とも指摘されます。

日本の若い世代はこのような社会や世相をどう受けとめ、将来の人生の方向をどう考えているのか、とても気にかかります。

中高の生徒諸君にまず伝えたいの

は、人生には山も谷もあり苦労も多いけど、楽しみや喜びもたくさんあるということ。いろんな目標を持って、黙々と取り組んで、また仲間と共にチャレンジし、やりがいや達成感を重ねて欲しいし、温かな人間のつながりをどこでも広げていけるんだという楽天主義を身につけて欲しいなと願っています。まず我々大人がそんな生活を築き、身をもって示すことが求められると思います。

中学1年から高校3年までの6年間で、生徒諸君は身体も心も、劇的に成長していきます。いろんなドラマに立ち会い、関わっていきける醍醐味は、我々教員にとっても大いなる励みになります。

「桜梅桃李」という言葉があります。一人ひとりが将来の人生で独自の花を咲かせてほしいです。学校時代にたぐり根をはり、水や栄養を吸収して欲しいものです。

クラスや学年や縦割りの諸活動を通して、様々な個性が出会い、ぶつかり、認め合う経験を重ねたいものです。それぞれの将来を励まし合う関係を、学園生活で築いていって欲しいと思います。

中高の教員室は、団塊の世代の先輩方が定年を迎える時代に入り、採用の遅れから深刻なスタッフ不足にも直面しています。教員の採用と募集にも今後もっと力を入れ、生徒達と向き合いながら、ますます切磋琢磨していきたく願っています。

中学募集危機の打開・

開拓を目指して

企画主任・入試広報主任

清水一伸

中学の募集は2005年の1652名の応募者数をピークにこの6年間減少し続けています。2010年度入試ではピーク時の約3分の1にまで応募者を減らし、受験者数もこの20年間では最低の372名となりました。この背景には、世界的な経済不況の影響もあるかと思われませんが、首都圏では公立学校の学校改革などが進んでいることも私学離れに繋がっていることと思います。社会全体が公立学校へシフトするような風が吹いているように感じています。私学にとっては大変厳しい時代に直面しています。

今年度、この募集危機を開拓するために、3つのことを進めています。

一つ目は、入試改革です。様々な研修会や大手塾の入試総括の講演会などに参加させていただき、情報収集に努めてきました。それをもとに入試日程や回数を見直すことにしました。研修会や講演会などについては、報告書を全教員に配布して読んでいただくようにしています。私学の教員として、募集の重要性を全教員で共通

認識することを大切にしています。2011年度入試では、受験機会を増やし幅広く受験できるように入試日を4日として、午後の入試も5年ぶりに再開することにしました。

二つ目は、広報活動を全教員で行うことにしました。また、生徒の皆さんや保護者の方にもご協力戴きました。保護者の方に学校説明会で学園の教育についてを語っていただき、たいへん好評でした。夏休みから全教員で様々な塾へ教育内容や入試日程の変更について説明をしてきています。外部で行われる学校相談会にも積極的に参加し、大手塾でのミニ学校説明会も再開しました。外部相談会では、ダンス部や理科研究部などの生徒の皆さんにも普段の学校での活動をアピールしてもらうように協力して頂きました。

そして三つ目は、インターネットの活用です。より多くの人に魅力ある学園を知っていただけるようにホームページや情報ポータルサイトを利用して学校の旬な話題を届けるようにしています。

湘南学園は、海に近い環境のもと、生徒の皆さんが様々なことを中高6年間で体験ができ、自ら自分の将来を考える力を育む進学校です。微力ながら、これからの魅力を多くの人に伝えて行きたいと考えています。

大学合格実績の

飛躍的向上を目指して

学習進学指導主任

野々内治男

今年度から、中高の学習進学を担当させていただくこととなりました。野々内と申します。どうぞよろしくお願ひ申し上げます。

近年、中高では、大学進学実績を向上させるべく、さまざまな取り組みがなされてきました。

例えば、朝の始業前の時間帯を利用した朝講習と呼ばれる特別講習が行なわれるようになりました。これは各担当者が自発的に行なっているもので、今年度は中二以上の学年で、延べ二十六講座が開講されています。また、一時期中断していた夏期合宿講習が再開され、今年で三年目となります。「自学自習」「自調自考」のコンセプトのもと、多くの高1、高2の生徒諸君が参加して、まさに勉強漬けの毎日を送ります。その他にも、いちいちここですべてを紹介することはできませんが、各学年や教員個人のレベルで、大学進学実績向上のための懸命の努力が不断からなされているのです。

その一方で、中高には、進路指導のプログラムが、現在のところ存在しません。例えば、高1の秋に、進路指導としてどのようなことをすべきなのかと

いったことが決まっておらず、完全に各学年や教員に任されてしまっているのです。もちろん、このような「自由」な状態であるがゆえに、独創的かつ効果的な進路指導が生み出されるといったこともあるでしょう。しかし、湘南学園は進学校を標榜しており、生徒の大多数は大学進学を目指している学校です。そのような学校であるにもかかわらず、進路指導のプログラムが存在しないというのは、決して誉められた状態ではないでしょう。学習進学指導委員会としては、これから極力早い時期に、この進路指導プログラムを作成する必要があると考えております。そのためには、これまでの各学年や教員の取り組み事例の情報を収集し、それらを精査した上で、各学年への効果的な配置を考えていかなければなりません。これはとても大きな仕事ですが、湘南学園の大学合格実績の向上を図るためには必ずやらなければならぬことです。力を挙げて取り組んでいきます。

この進路指導プログラムが完成すると、生徒諸君に対して、毎年決まった時期に決まった内容の進路指導が行なわれることとなります。それによつて、大学合格実績を安定させることができるだろうと考えております。



マナーとモラルの全校的な

向上に向けて

生活指導主任 福田孝政

私達が、日頃の生活をする上で必ずそこにはマナーやモラルがついてまわります。学校生活においても当然、これらは存在をしますが、これは社会に出たときにも必要となるものであり、学習と合わせて生徒の皆さんには身につけて卒業して欲しいと思っています。

生活指導委員会では生徒の皆さんのマナーやモラルの向上に向けて様々な取り組みを行っています。

毎年、5月の連休明けに行われる「自転車安全講習会」では、単に事故防止の為の講習会にとどまらず自転車乗車におけるマナーについても警察署の方にお話しただきました。また、今年度より中学一年生に対して「ケータイ教室」を実施し、携帯電話におけるトラブルや被害についての講演をしていただくと同時に、使用においてマナーやエチケットについてもお話しをしていただくことになりました。

中高の6年間は人生にとって最も多くのことを学べる貴重な期間です。勉強や部活動に熱心に取り組むのももちろんのことですが、

学校生活のあらゆる場面からマナーやモラルを身につけて社会で活躍する学園生になって欲しいと心から願っています。



自分もまんざらじゃないし

あの子もなかなか!

中1学年主任 有蘭和子

私たちは、192人の新入生を迎える日、こう確認しました。

「私たち学年スタッフは、いつのときでも協力・協働し、

一人ひとりの生徒が、他者との豊かな関わりの中で、発達段階にふさわしい「自我」を確立し、自己肯定感をしっかりともてるように援助する。

”カラーは様々でも、二つのクラスが、いろいろなことに自主的・主体的にとりくめる集団となるよう援助する。

#保護者からの要望や期待を受けとめつつ、家庭と学校が真に連携していける関係を育むため、傾聴および協力要請にも努める。」

4月のあの日、新しい教室に入り、緊張していた生徒諸君も、ゴールデンウィークを過ぎ、夏を迎える頃には、もう一人前の学園生としての顔になっていました。先輩たちの奮闘に感激した体育祭。戸惑いながらも学園祭に向けての準備にとりかかり、生徒会の会議や実行委員会にも参加し始めました。

そして、厳しい部活の練習にも耐

えながら、毎日を送る諸君も大勢（現在、運動部およそ120名文化部57名）あらわれ、驚くほどのエネルギーを放っています。

朝読書が始まる一日。本に惹き込まれる10分間はあつという間ですが、この朝の静かな空気は、一日を過ごすための心の栄養です。チャイムと共にしつかり席に着き、1・2時間目の集中力は抜群。昼食後の4時間目はややキツイ?！・・・でも好奇心は旺盛! 質問したいことが多すぎて、私の地理の授業のときなど、なかなか授業が前に進まない・・・なんてこともあります。小学校時代に習って認識していたことがひっくり返され、驚くやら感嘆するやら etc・・・

・。中学ならではの深い学びと、難解ながらも「小学校のときより面白いや!」と思わず叫んでしまいたくなる、熱い50分が展開されています。

特活では、DVD鑑賞や障がいをもつ方との交流。ハンディキャップ体験やクラス討論などを通じて、誰もがみなかけがえのない存在なんだということを確かめました。みんなの中にも、活発、内気、強すぎる人、優しい人・・・いろいろな「持ち味」がありますから、互いの気持ちのぶつかり合いや行き違いもあるでしょう。でもこれから先、みんなが、たくさんとりくみを通じて、「自分もまんざらじゃないけど、あの子もなかなかじゃないか!」と思える瞬間をたくさん経験してくれたらな・・・と期待しています。

全学の連携を強めて

動き出した学園運営協議会

「学園運営協議会」は、全てのパートの管理職や学内理事が集まり、週1回の割で定期的に協議する場です。前学園長の提案で5年前に開始され、学園長が召集して報告や議論を行います。取り扱う内容は採用、長期教育計画、学校運営、理事会への提案、理事会からの提案、予算決算の事項、その他学園長が必要と認めたこととなっています。

各パートからの報告、当面の全学的な懸案事項や進行状況の確認など、連絡調整がまず必要です。この間も小学校建築関係や森稔氏講演会など、大きな事項がありました。ただ従来は長期的な全学課題の検討や、特に学校間の接続・連携の議論はなかなか深まらなかったようです。パート間の相互理解の弱さもずっと続き、「近くて遠い関係が続いてきた」との指摘もあるほどです。

仲本正夫新学園長からは、せまる創立80周年記念事業も視野に入られて、全学の連携強化、「総合学園」としての湘南学園の教育目標の共有、実践の推進が強く提起されました。中高パートからも一貫教育の充実を求めて問題提起を行

いました。

それぞれの学校の取り組みや努力をもっと知り合い、謙虚に認め合い、その上で別学の立場から意見もし、提言や助言も行う。共通の教育的価値を確認し、連携を意識した実践をさらに模索する。そのような方向でこの協議会をより意義のある場にするべく始動しています。

特に現在、幼・小・中高の連携強化へ向けて、仲本学園長からは、

- 「1 すぐに実行できること」
 - 「2 この1年間にやれること」
 - 「3 長期的に検討すべきこと」
- を整理して、すぐに着手していきたいとの課題提起がありました。
1. では、パート間の連絡と協力を密にし、他パートに知らせるべき情報や配布物の提供に日常から各学校の行事・説明会・授業参観・校内研修会などを相互に紹介し、募集業務でも連携を模索し、他パート行事へも参加を増やそうと話しています。

2. では、分掌・実務担当者の交流会（募集・生活指導・学習指導・生徒会児童会・地域連携・防災など）や親睦的な行事の設定（若い教職員の増加を受け、顔と名前を知り合い談話できる場面を

持つ）、内部進学者の中高での状況報告、校内全学研修会の設定、などが示されました。

3. では、「幼・小接続」「小・中接続」に関わる取り組みの強化が眼目です。知的好奇心を養い、基礎学力の保証を徹底し、大学進学までの指導を強化する、継続的な教育力の強化が問われます。関連して、小中高合同教科会や授業・カリキュラムの交流と検討、総合学習の連携等が話題になりました。

そこです、7月13日に「湘南学園幼小中高第1回ミニ教研」が開催されました。「小学校エコースタールの取り組み」「小4・総合学習「水・環境」の実践」「中高6年間の特活」私の取り組み」と三つの優れた実践報告が行われました。保護者の方々も含めて36名の参加があり、学園長の司会で活発な意見が出され、学園教育のつながりと子ども達の発達を考え合う素晴らしい機会となりました。

教育実践を通じてパート間の対話を深め、一貫性ある教育で子ども達と関わり、成長を願い、連携していこうとの意欲が広がっています。こうした機会を今後も追求していきたいと、運営協議会では話し合っています。

(中高校長 山田明彦)

学校法人から

全国誌から取材を受ける

湘南学園法人事務局

湘南学園は、7月20日に全国誌『湘南スタイル』から取材を受けました。

テーマは「湘南の学舎」で、湘南白百合学園に続く第2回の掲載となります。当日は、学園の昔の様子や現在の状況について、学園長及び事務局長並びに本学卒業生で鶴沼公民館資料室勤務の内藤喜嗣氏に出席をお願いして対応いたしました。

写真撮影は、創設期の建物や授業風景等のパネル写真等の複写、現在の中高校舎の施設の様子や夏期講習風景等が対象になりました。

実際に出版される内容はどのようなものか、写真は何か載るのか、と多少気にはなりますが、PTA、学園関係者、そして全国の同窓生の皆さんにも楽しみにして頂きたいと思えます。本号学園だよりが発行されるのとはほぼ同時期の、9月26日発売号の『湘南スタイル』(柘(えい)出版社)に掲載される予定です。

